



令和6年度 中央区地域活性化事業交付金 交付決定事業 【小山地区】

令和7年3月31日現在

No.	団体名	事業等の名称	事業の概要 (申請時)			交付決定 年月日	事業予算(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付金額
1	小山の地域をつなげる会	小山地域の人と人をつなげるプロジェクト	<p>新型コロナウイルス感染症が落ち着き、地域の行事や活動が再開され賑わいが回復してきた。しかし、地域の人と人の関わりや交流はまだ従前の状態とは遠い状態で、特に子どもたちを対象とした活動場所や事業の少ないことが子どもたちの体験不足に繋がる恐れが心配される。</p>	<p>・小山地域内の団体と連携を図りながら、地域内に住む様々な世代が交流する機会を設け、地域の活性化を取り戻すきっかけとする。 ・「遊び」、「学び」、「語らい・ふれあい」を中心とした子供から高齢者までの多世代交流の事業を実施し、地域住民同士のつながりを深め、より安全安心で住みよいまちづくりの一助とする。</p>	<p>・多世代交流事業(絵手紙教室、歌の集い、お話し会、廃油石けん作り、マジック、けん玉、ゲーム、音楽と語りの集いなど) ・コミュニティスクール(物づくり、昔遊び体験など) ・支援が必要な児童・生徒に対する学習支援 ・自治会など他団体との連携、共催事業の実施(防災ゲーム、地域清掃など)</p>	R6.5.15	226,000	226,000	226,000
2	小山中ハロフェス盛り上げ隊	小山地区ハロフェス(あいさつ運動)プロジェクト	<p>小山地区においては、これまで、相模原駅北口地区のまちづくりなどをテーマに検討してきた経緯があるが、いつの議論の場でも「子どもの居場所づくり」や「子育て世代」など“子ども”をキーワードとした検討がなされており、子どもが住みよいまちでなくては地域振興は無いという意識が根付いている。実際に小山地区ふるさとまつり爽涼会などは子どもに重きを置いた企画運営がなされている。 そのような中、子どもたちも期待に応えるような活動を行っている。地区内の唯一の中学校である小山中学校では、年4回正門でのあいさつ運動(通称:ハロフェス)を実施している。笑顔であいさつを行うことで、学校内が明るい雰囲気になったり顔見知りが増えたりし、小山中学校がどんどん活気づいていくのを感じている。 一方、昨今では近所付き合いや人間関係の希薄化、コロナ禍も相まって地域のおまつりやイベント等も中止や縮小傾向にあり、地域の人々の関わりが少なくなっている。これは、安全・安心や防災の分野でも負の要因となっており、人と人とのつながりの大切さをあらためて共通認識する必要がある。</p>	<p>ハロフェス(あいさつ運動)を校外外に広げ、地域の方も巻き込んで実施することにより、世代間交流を促すとともに、住民同士の絆を深めるなど、地域活動の礎となるソフト面の充実を図る。 今回この活動をさらに活気づける啓発物品(のぼり旗等)を製作し、ハロフェスをアピールし、参加者の増員をめざす。 また、子どもたちから大人たちへこの活動を主体的に見せることで、第三者にもこの地区の強固なつながり様を知らしめ、災害時における助け合いや安全・安心なまちづくりの実践地区としての発展をめざす。</p>	<p>・ハロフェスを実施する際の啓発物品(のぼり旗、バルーンアーチ等)の作成。 ・小山中学校及び地域のイベント等も含めたハロフェスの実施。</p>	R6.12.10	100,000	100,000	100,000
3	NPO法人 ジョガポーラ	不登校児童生徒のためのスポーツサポート(スポサポ)事業	<p>中央区内で、不登校児童生徒の居場所が少ないという声を聞き調べてみたところ、市内全体においても不登校の児童生徒数は年々増えており、市内の中学生で占める割合は全体の7%にのぼっていた。各民間団体による無料の学習支援教室等は増えてきているが、フリースクールや通信制教育等は多額の負担が生じる。また、学習サポートの施設は多いが運動等の体を動かせる施設が少ないという課題がある。 その様な中で、この「スポーツのまち・小山」において、区内にできた新たなスポーツ施設を拠点に、子どもたちが直接顔を合わせ、心から一緒にその時間を過ごすことが真のコミュニティや地域の活性を育み、「子どもの居場所づくり」にも繋がるのではないかと感じている。また、相手や自分の心や体を大切に思い、長きにわたり自身の健康を保つということも非常に大切である。 さらに、地域の方や関連団体との連携を促し、協力を得ながら実施することができれば、小山地区内における子どもの見守り体制の構築の一助となり、他地区の見本となる取組として発展する可能性を秘めていると思っている。</p>	<p>不登校の児童・生徒に対して、心も身体も安心して運動できるような居場所を作ることで、心身の健康の促進と、社会への信頼につながる意欲を持たせるサポートをする。</p>	<p>相模原スポーツ・レクリエーションパークにおいて、サッカーやボール遊びを通じたグループ活動を実施する。 ・同じ境遇の同年代の生徒や、大学生等のボランティアとの交流を行う。</p>	R6.12.13	520,000	500,000	283,000
							846,000	826,000	609,000